

秋冬季に瀬戸臨海実験所構内に頻繁に出現した熱帯性の サツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科)

久保田 信

Frequent appearance of a tropical cockroach, *Opisthoptatia orientalis* (Blattaria, Blattoidea), in autumn and winter in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)

はじめに

南方系のゴキブリ類の1種であるサツマゴキブリ *Opisthoptatia orientalis* は、昨今の地球温暖化に伴って和歌山県白浜町では分布を拡大しており、1999年に初めて発見されて以降(後藤, 2000), 2002年に実験所付近の江津良の海岸道路上での遭遇、町内の諸所での発見、そして実験所構内に最近になって出現した(久保田, 2006a, b, 2009; 樫山・久保田, 2002, 2010)。今回、2010年9-12月の秋冬季に瀬戸臨海実験所研究棟入り口付近から正門前の道路上を中心とした場所で、過去18年間で最も頻繁に本種に遭遇したので記録する。

研究棟正面入口 2個体

4a. 2010年11月12日 19:00

正門内側手前 2個体

4b. 2010年11月12日 22:22

正門内側手前 5個体

4c. 2010年11月13日 0:30

研究棟～正門内側手前 7個体

5. 2010年11月15日 3:30

研究棟～正門内側手前 2個体

6. 2010年11月30日 19:30

研究棟～正門内側手前 1個体

7. 2010年12月11日 0:00

研究棟～正門内側手前 1個体

サツマゴキブリと遭遇した年月日と時間、地点および個体数

1. 2010年9月28日 18:10

“北浜”入口 1個体

2. 2010年10月13日 20:30

研究棟正面入口 1個体 (図1)

3. 2010年10月30日 19:36

上記のように、実験所構内の中央部付近において、2010年9月末～12月中旬に(2010年の他の時期には遭遇なし)夕方から夜中にかけてサツマゴキブリに何度も遭遇した。ほとんどの個体が成虫であった。このようなことはこれまでの18年間にわたる勤務期間中にはみられなかった。2010年11月12日-2010年11月13日の

連続3回の遭遇では、夜中になるにつれて出現数が増え、深夜が今回の記録中で最多数の7個体となった。11月13日6時50分、15個体が研究棟～正門内側手前までの構内道路上で点々と死亡しているのが観察された。それらのうちの少数は轢死であったが、他個体の死亡原因は寿命が過ぎたのか、寒冷による死亡なのかなど不明である。

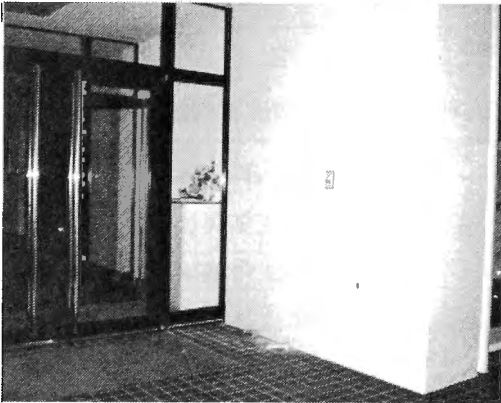


図1. 研究棟正面入口へ10月中旬の夜に出現した1個体のサツマゴキブリ(右下の白い壁に這い上がっている)。

2010年12月11日0:00の出現が今回の遭遇では最も遅い時期と時刻であり、その最終時の気温は12.5℃であった。その後、最高最低温度計で測定したところ、気温は9.0℃まで下がっていた。この程度の低温がサツマゴキブリが活動できる限界なのであろう。

引用文献

- 後藤 伸. 2000. 「虫たちの熊野」. pp.77-81, 初版第1版, 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県.
- 樫山 嘉郎・久保田 信. 2002. 和歌山県白浜町産の熱帯系ゴキブリ類3種(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 南紀生物, 44(2): 153-154.
- 樫山 嘉郎・久保田 信. 2010. 和歌山県白浜町の海岸へ漂着した2個体目のサツマゴキブリ KINOKUNI, (77): 22.
- 久保田 信 2006a. 「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」. 233pp., 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県.
- 久保田 信. 2006b. サツマゴキブリ和歌山県白浜町の海岸へ漂着. KINOKUNI, (70): 10-11.
- 久保田 信. 2009. 瀬戸臨海実験所構内に出現した熱帯性ゴキブリ類の第3番目の種サツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 22: 36.